

活用事例	③ 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】6年生児童による避難用具の運搬、「ぼうさいのうた」の紹介		
学校名	周防大島町立城山小学校		
日時	平成25年4月23日（火） 2時間目終了前～業間時間		
場所	教室及び駐車場～町道	参加者	児童・教職員

1 訓練のねらい

実践的防災教育を継続した『“ニゲル”を「つなげる」「ひろげる」防災教育』の開始。

- (1) 非常災害時に児童が安全に避難できるように、避難の方法・心構え・行動等の仕方を学ぶ。
- (2) 教職員がそれぞれの役割分担で適切に動くよう、実践を通して確認する。

※ 津波を避けて高所に逃げること。その訓練を一層深化させ、実践の主体化を図る。
※ 防災キャラクター「ニゲル君」で、津波の伝承を伝え、防災力向上や外部との連携を進める。

2 訓練の概要

地震（緊急地震速報あり、揺れ3分）の発生により一次避難。その後、津波を想定して二次避難の途中まで実施する。

校舎内 → 一次避難（駐車場） → 人員確認・避難用具準備 → 二次避難（町道から県道出口まで）

<日 程>

10:05 地震発生

- ① 効果音で「緊急地震速報」、その後30秒で「地震音」3分放送する。
 - 児童は机の下に体を隠す。（対角線上の脚を保持する）
 - 体育館や運動場で学習している場合は、中央に集まり座る。

- ② 一次避難・・・ハンドマイクで命令

「地震がおさまった。先生の指示に従って駐車場に避難せよ。」

- ③ 教室から模擬落下物を避け、駐車場へ第一次避難を行う。
 - 1階は1階出口を確保。
 - 児童は帽子をかぶる。
 - 上靴のまま避難する。（雨天時…事前に下靴に履き替える）
 - 集合は、駐車場で出口に向かってペア学年で整列。
 - 人数報告……担任から教頭（校長）へ「□年生△人全員避難しました」
 - ※今回は全校児童名簿・カードなし

10:10 津波発生を想定

- ④ 駐車場から第二次避難。（県道出口まで）
 - 6年は全校の傘を持ちだし、タンカで水タンク・シート・ロープ等の搬出を行う。
 - 5年とペア学年の1年から担任引率で移動する。「お・は・し・も」
 - 「二次避難開始」で体育館横まで移動。
 - 人員確認 → 報告 → 訓練終了

10:15 校長先生の講評・講話

《事前指導・事後指導》

- ※放送を静かに聞くことの指導を徹底する。
- ※「お・は・し・も」の徹底をする。

実践的防災教育で 海のイメージが変わった

南海・東南海地震の被害予測によると、本校のある周防大島町は、震度6弱で、地震発生後90分後には最大4メートルの津波が襲来する。児童の調べでも、学校のある外入地区には、安政南海地震の際、標高20メートル近くまで津波が遡上したという伝承があり、そのしるしの「ほこら」がある。

本校は、平成24年度に山口県の「実践的防災教育推進校」に指定された。大地震とその後の津波に対応する力を育てる防災教育を進め、大学教授や気象台職員の指導による地震・津波発生の仕組みの学習や避難訓練を継続して実施しており、平成24年度・25年度において、避難訓練を約10回実施してきた。本事例は、その一例である。

初回の避難訓練においては、東日本大震災の新聞を児童に見せる時間（教師が児童に見せるものを手にし、児童は手に何も持たないでいた）があったが、授業外での地震・津波発生を想定したり、児童だけでの不意の遭遇を想定したりして、訓練の回を重ねるにつけて、児童主体で避難行動ができるようになってきた。

大人が周囲におらず、児童だけで地震・津波に遭遇し、逃げ場が急斜面に限られてしまうという危機的な状況を、6年生児童が考案し訓練を実施したこともある。この訓練においては、高学年児童は、手にロープを持ち、低学年児童の手を引くなどの活動があり、児童自らの力で生き抜く態度と能力を培う訓練となった。（この訓練では、教師は津波の絵を持ち、児童は急斜面登坂のためのロープを持って参加した。初回とは大きく異なる。）

本校の児童主体の「生きる力を育む防災教育」としての避難訓練は、マスコミにも取り上げられた。

このような避難訓練以外にも、家庭との連携も重視し、児童と家族がいっしょに『城山小学校防災カルタ』を作った。「海にはね天使と悪魔が住んでいる」は、児童が考えた読み札の一つである。児童にとってふるさとの海は、ニホンアワサングの群生地、新鮮な魚の漁場、楽しく泳いだり遊んだりできる海岸など、美しく豊かで楽しい「天使が住む海」

だったと思われる。そのイメージが、「大地震の後には、目の前の海に大津波が押し寄せてくる。いざという時には、子どもだけでも自力で素速く高い場所に逃げなければならない。」と変わってきた。

他にも、安政の大津波の中で生き延びたタコがいたとの伝承から、「ニゲル君」という防災キャラクターを考案して避難訓練の旗印にするなど、地震・津波への危機意識を継承している。（下のイラスト参照）

今年度には、さらに地元のシンガーソングライターのマウンテンマウスとの合作で下のような「ぼうさいのうた」も作成した。

『ぼうさいのうた』
作詞 周防大島町立城山小学校の子どもたち
作曲 マウンテンマウスまよしい

わすれないひがしにほんだいいんざい

1. たいせつないのちをまもるため
じぶんのいのちしんてまもろう
つなみからにけるときはたかいばしょ
いのちがあればにもつばなにもいらぬよ

いざでるといふことそれはありがたいせきざき
あせらずに さわがずに あわてずに あまらぬす おろづいて
あせらずに さわがずに あわてずに あまらぬす おろづいて
わすれないひがしにほんだいいんざい

2. たいせつないのちをまもるため
家族と居るあつたてん場所
あつたてん場所をなげあつて
きょうりょくしあつてこころよせあつて

たいへんなときこそ伝えよう『ありがとう』の言葉
あせらずに さわがずに あわてずに あまらぬす おろづいて
あせらずに さわがずに あわてずに あまらぬす おろづいて
わすれないひがしにほんだいいんざい
ウララ...

わすれないひがしにほんだいいんざい
ひがしにほんだいいんざい



Copyright © 2014 Mountain Mouse Project

今後、地域の知恵や歴史を生かすことで、安心・安全な学校づくりを進めたい。

3 今後の課題

- ◆ 避難訓練
二次避難場所での待機・持久体制（学校単独で約半日間を想定）訓練等が必要である。
- ◆ 保護者・地域との総合訓練
二次避難場所での協働・連携訓練（給水・給食を含む）、保護者引き渡し訓練等が必要である。
- ◆ 地震・津波の伝承の整理と周知
町内・近接市町の事例を見学し、まとめて知らせるなど、防災意識を広め伝える活動の充実が重要である。